

## 6.2 今後へ向けた提言

- 次世代デジタル道路地図の実現へ向けて、今後、下記の表 6.2-1 にまとめた次世代デジタル道路地図の実現へ向けた諸課題などの解決に係る活動を積極的に行っていくことが必要。
- 平成 19 年度に、道路基盤地図情報に関する技術的課題の検討とあわせ議論できる体制を早期に構築することが必要。

表 6.2-1 今後積極的に取り組むべき諸課題

項目	主な諸課題
(1) デジタル道路地図の迅速な更新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路平面図等の試行提供を通じた利用者による評価</li> <li>・実運用へ向けた体制等の構築</li> <li>・提供する図面(情報)の内容のさらなる充実</li> <li>・直轄国道以外の道路への展開シナリオの具体化</li> <li>・地理空間情報活用推進基本法案等と関連する道路基盤地図情報に関する技術的課題の解決</li> <li>・カーナビのリアルタイム更新へ向け、官民双方の課題を踏まえた技術開発・実験やビジネスモデルの確立</li> </ul>
(2) デジタル道路地図を用いた安全走行支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・走行支援へ向けたデジタル道路地図の具体化</li> <li>・デジタル道路地図を活用した走行支援アプリケーションの研究開発</li> <li>・ナビ地図と車載機器のインタフェースの定義</li> </ul>
(3) 道路の共通位置参照方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験による方式案の実現可能性分析や評価</li> <li>・運用へ向けた課題の整理・体制の構築</li> <li>・活用面から見た本方式を普及させるための仕組み・工夫の具体化</li> <li>・国内他分野(自律移動支援、歩行者 ITS 等)における類似技術との整合性確認や、国際標準との整合性確保</li> </ul>
(4) 標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DRM21 と国際標準(XGDF)の整合性確保(SWG3.1)</li> <li>・次期 XGDF へ向けた戦略の具体化(SWG3.1)</li> <li>・地図リアルタイム配信に関する詳細仕様案の具体化および技術的優位性評価(必要な技術開発含む)(SWG3.2)</li> <li>・日本の技術との親和性が高い地図配信データ構造標準案の具体化(SWG3.2)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ナビゲーションシステムが開発途上である国・地域への啓蒙活動、運用体制確立へ向けた技術供与・協力など</li> </ul>

6.1 節で示したとおり、次世代デジタル道路地図研究会でこれまでに行った活動により、道路平面図等管理システムの構築や道路の共通位置参照方式における基本的考え方素案とりまとめ、ISO/TC204/WG3 における国際標準化活動の推進などにおいて一定の成果を達成したところである。

しかし、本稿第 3 章および第 4 章で示した次世代デジタル道路地図の実現へ向けには、官民連携によるさらなる検討が求められる。

上記の観点から、今後も、表 6.2-1 にまとめた次世代デジタル道路地図の実現へ向けた諸課題などの解決に係る活動を積極的に行っていくことが必要である。

平成 19 年度の検討の方向性は、図 6.2-1 に示す通りである。

本研究会は、設立趣意(活動期間 2 年)に順じ一旦終了とするが、道路の共通位置参照方式や図面の道路管理者外への提供など、研究会で検討した項目の中でも引き続き検討が必要なものも多い。また、現在国会で審議を行っている地理空間情報活用推進基本法案等と連携し、道路基盤地図情報に関する技術的課題の検討も必要な状況である。こうした状況を踏まえ、平成 19 年度に上記を議論できる体制を早期に構築することが望ましい。

- ・設立趣意(活動期間 2 年)に準じ、研究会は今回で一旦終了。
- ・ただし、位置参照や図面情報の外部提供等は、引き続き検討が必要。また、地理空間情報活用推進基本法案等と関連し、道路基盤地図情報に関する技術的課題の検討も必要。
- ・平成 19 年度に上記項目を議論できる体制を早期に構築。

図 6.2-1 平成 19 年度の研究会の方向性。